

## 「見える化」の具体的な取組項目（案）

「見える化」の目的に応じた具体的取組項目について、排出量の算定方法の正確性、排出量の表示方法を組み合わせた例を以下に示す。

今回の議論を踏まえ、実現可能性の高い取組から優先的に検討を行い、また、必要に応じて項目を追加することとする。

## -目次-

1. 主に自らの排出量の把握による自己削減を目的とした見える化 .....	1
(1) 家庭からの排出量の見える化 .....	1
(2) スーパー等での購入品の合計排出量の見える化 .....	1
(3) 宅急便の不在者宅配の見える化 .....	2
(4) ホテルの温水利用の見える化 .....	3
2. 主に商品・サービス選択を促すことを目的とした見える化 .....	4
(1) 家電製品の買い替えの見える化（国民生活対策室にて作成） .....	4
(2) IT 関連サービスの見える化 .....	4
3. 主にカーボン・オフセットでの活用を目的とした見える化 .....	6
(1) イベントの見える化 .....	6
(2) 旅行の見える化 .....	6
(3) リース機器の見える化 .....	6



## 1. 主に自らの排出量の把握による自己削減を目的とした見える化

### (1) 家庭からの排出量の見える化

民生部門における温室効果ガス排出量は増加傾向にあり、普段のライフスタイルの変化による排出量の削減が求められる。

ここでは、家庭における電力消費、ガス使用、水道使用、廃棄物の廃棄、公共交通の利用、スーパーマーケットでの買物等による見える化を行い、家庭全体からの排出量を取り上げる。

#### (バウンダリ)

スーパー等での購入品については、「(2) スーパー等での購入品の合計排出量の見える化」と同様とし、家庭における電力消費、ガス使用、水道使用、廃棄物の廃棄、公共交通の利用による排出量の算定については、バウンダリは使用等段階のみとする。

#### (算定方法)

幅広い分野を簡易に算定する必要がある。また、正確性については厳密でなくとも大きな問題はない。

- ・ レベル1またはレベル2の算定方法を選択とする。

#### (表示方法)

排出量の表示は、できるだけ費用をかけず気軽に表示できることが普及を目的とした場合に重要となる。また、表示が消費者に分かりやすいものである必要があり、さらには低炭素型の生活に向けた普及啓発の効果があることが望ましい。こうした考えから、以下の表示方法が考えられる。

- ・ 簡単に家庭内の排出量が分かるメーターを取り付ける（エネルギー消費による排出量）
- ・ インターネットにおける公表
- ・ QRコードを利用した携帯電話での表示
- ・ レシートでの表示

### (2) スーパー等での購入品の合計排出量の見える化

民生部門における温室効果ガス排出量は増加傾向にあり、将来の低炭素社会に向けて、普段のライフスタイルの変化による排出量の削減が求められる。

ここでは、身近な買い物先であるスーパーマーケット等の小売店舗において日常的に購入の機会が多い食料品や日用品等の非耐久消費財の排出量を表示し、消費行動を見える化する取組を取り上げる。この場合、同一商品のメーカーごとの違いを認識することよりも、非耐久消費財の排出量を幅広く表示して、日常品の買い物にもなう排出量を認識することが重要と考えられる。

(バウンダリ)

一般的に非耐久消費財のライフサイクル全体の排出量にしめる原材料調達・製造段階での割合は大きく、この段階までの排出量を算定することで全体排出量を推計したとみなせる。

- ・ バウンダリは原材料調達・製造段階のみとする。

(算定方法)

幅広い分野を簡易かつ安価に算定する必要がある。また、正確性については厳密でなくとも大きな問題はない。

- ・ レベル1の算定方法とする。
- ・ 国立環境研究所の研究成果である産業連関表による環境負荷原単位データベース(3EID)(参考資料1)を活用して商品ごとの二酸化炭素(CO2)排出量を計算する。

(表示方法)

表示方法は消費者に分かりやすいものである必要があり、さらには低炭素型の生活に向けた普及啓発の効果があることが望ましい。こうした考えから、以下の表示方法が考えられる。

- ・ 商品の陳列棚での表示
- ・ インターネットにおける公表
- ・ QRコードを利用した携帯電話での表示
- ・ レシートでの表示

(3) 宅急便の不在者宅配の見える化

宅急便では、不在者宅配の場合に追加的な二酸化炭素の排出がなされており、これを削減するためにも、不在者宅配に伴って発生する二酸化炭素を見える化する。

(バウンダリ)

- ・ バウンダリは運搬段階のみとする。

(算定方法)

- ・ レベル2の算定方法とする。

(表示方法)

表示方法は消費者に分かりやすいものである必要があり、さらには低炭素型の生活に向けた普及啓発の効果があることが望ましい。こうした考えから、以下の表示方法が考えられる。

- ・ インターネットにおける表示
- ・ 不在者連絡票での表示

#### (4) ホテルの温水利用の見える化

ホテルでは、温水利用サービスも含めて定額で宿泊できることにより、温水の利用量の削減インセンティブは働いていない。温水利用に伴って発生する二酸化炭素を見える化することで、温水利用の自発的削減を促す。

##### (バウンダリ)

- ・ バウンダリは使用段階のみとする。

##### (算定方法)

- ・ レベル2の算定方法とする。

##### (表示方法)

表示方法は消費者に分かりやすいものである必要があり、さらには低炭素型の生活に向けた普及啓発の効果があることが望ましい。こうした考えから、以下の表示方法が考えられる。

- ・ インターネットにおける表示
- ・ ホテルのレシートでの表示

## 2. 主に商品・サービス選択を促すことを目的とした見える化

### (1) 家電製品の買い替えの見える化（国民生活対策室にて作成）

中央環境審議会等における家電リサイクル制度の評価・検討において、省エネ家電普及等による地球温暖化対策等の観点で踏まえたリユース品の基準等について検討しているところである。

ここでは、省エネ化が進展している家電製品4品目（テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン）について、例えば現在使用している家電製品と、買い替えを予定している家電製品について、温室効果ガス排出量を比較し、排出量が少ない製品を容易に判断できるような「見える化」の取組を取り上げる。

（バウンダリ）

検討中

（算定方法）

検討中

（表示方法）

- ・ インターネットにおける公表
- ・ QRコードを利用した携帯電話での表示

### (2) IT関連サービスの見える化

IT関連サービスは、低炭素社会へ消費者の活動を後押しする可能性があるとして注目が集まっているが、一方でインターネット通販等の進展により宅配などの物流部門での排出量の増加が懸念されるなど、関連する業務の排出量まで含めるとかえって増加しているのではないかと指摘もある。

ここでは、IT関連サービスを利用した際の排出量とそうでない場合の排出量を比較することにより、IT関連サービスの進展が排出削減を促進するものかどうかを明らかにする。

（バウンダリ）

IT関連サービスが行われた場合のケースとIT関連サービスを行わないケースを算定対象とする。

（算定方法）

IT関連サービスが全体として温室効果ガスの排出につながるかを簡便に判断するためのものであり、高い正確性は求められない。

- ・ レベル1の算定方法を選択とする

(表示方法)

- ・ インターネットにおける公表

### 3. 主にカーボン・オフセットでの活用を目的とした見える化

#### (1) イベントの見える化

結婚式等のイベントにかかる排出量を対象にカーボン・オフセットを実施する取組が普及しつつあり、結婚式等のイベントにかかる排出量の見える化する取組を取り上げる。

この場合、イベント会場等の違いを認識することよりも、イベントの計画内容に応じた排出量の違いを幅広く表示することが重要である。

##### (バウンダリ)

バウンダリは原材料調達やイベント出席者の輸送に係る段階・ホテル等の会場の使用段階のみとする。

##### (算定方法)

- ・ レベル2の算定方法を選択とする

##### (表示方法)

- ・ インターネットにおける公表
- ・ パンフレット・報告書等の作成

#### (2) 旅行の見える化

国内及び海外旅行にかかる排出量を対象にしたカーボン・オフセットが普及しつつあり、旅行にかかる排出量を見える化する取り組みを取り上げる。

この場合、旅行の行き先や移動手段、ホテル・旅館のグレードの選択による排出量の違いを幅広く表示することが重要である。

##### (バウンダリ)

- ・ バウンダリは移動段階とホテル・旅館の使用段階を対象とする

##### (算定方法)

- ・ レベル2の算定方法を選択とする

##### (表示方法)

- ・ インターネットにおける公表
- ・ パンフレット・報告書等の作成

#### (3) リース機器の見える化

オフィスにおけるリース機器の使用にかかる排出量を対象にカーボン・オフセットを実施する取組が普及しつつあり、ここでは代表的なリース機器（コピー機等）の使用にかかる排出量を見える化する取り組みを取り上げる。

この場合、リース機器を提供する企業の違いを認識することよりも、リース機器そのものの排出量を幅広く表示し、カーボン・オフセットを実施しようとする企業等がリース機器の使用にかかる排出量を認識することが重要である。

(バウンダリ)

リース機器の製造・使用・廃棄の全ての過程を対象とするが、特定の過程の排出量が全体排出量の大半を占める場合は、他の過程を省略してもよい。

(算定方法)

- ・ レベル2の算定方法を選択とする

(表示方法)

- ・ インターネットにおける公表
- ・ パンフレット・報告書等の作成